

# 平成 25 年度事業報告

公益財団法人精神・神経科学振興財団は、新公益法人制度の施行（公益法人制度改革三法）に伴い公益認定を取得し、平成 24 年 4 月 1 日から公益財団法人として、新たにスタートした。

本年度の事業活動について以下のように報告する。

## I 会 議

### 1 評 議 員 会

- (1) 開催日 平成 25 年 6 月 20 日（木） 午後 2 時 法曹会館  
議 案 第 1 号議案 平成 24 年度事業報告（案）及び収支決算（案）について  
報告事項 役員（常務理事）の選出について  
そ の 他 次期評議員会開催について  
出席等 決議に必要な出席者の数 5 名、出席 5 名、欠席 3 名
- (2) 開催日 平成 25 年 9 月 17 日（火） 決議の省略  
議 案 第 1 号議案 役員（監事）の選出について  
第 2 号議案 定款の一部改正（案）について  
第 3 号議案 平成 25 年度補正予算（案）について  
出席等 決議に必要な出席者の数 8 名、出席 8 名、欠席 0 名
- (3) 開催日 平成 26 年 3 月 13 日（木） 午後 1 時 15 分 法曹会館  
議 案 第 1 号議案 平成 25 年度第 2 次補正予算（案）について  
第 2 号議案 平成 26 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について  
報告事項 選考委員会委員の委嘱について  
利益相反審査委員会委員の委嘱について  
各規則等の一部改正（案）について  
寄附金・賛助会員の入金等状況について  
平成 25 年度における職務の実施状況について  
そ の 他 次期評議員会開催について  
出席等 決議に必要な出席者の数 5 名、出席 8 名、欠席 0 名

### 2 理 事 会

- (1) 開催日 平成 25 年 6 月 3 日（月） 午後 2 時 法曹会館  
議 案 第 1 号議案 平成 24 年度事業報告（案）及び収支決算（案）について  
第 2 号議案 定款の一部改正（案）について  
第 3 号議案 役員（常務理事）について  
報告事項 理事長、常務理事の職務の実施状況について  
そ の 他 次回理事会及び評議員会開催について  
出席等 決議に必要な出席者の数 5 名、出席 6 名、欠席 3 名
- (2) 開催日 平成 25 年 8 月 21 日（水） 決議の省略  
議 案 第 1 号議案 平成 25 年度補正予算（案）について  
第 2 号議案 臨時評議員会の招集について  
出席等 決議に必要な出席者の数 9 名、出席 9 名、欠席 0 名

- (3) 開催日 平成26年3月13日(木) 午後2時 法曹会館
- 議案 第1号議案 平成25年度第2次補正予算(案)について  
第2号議案 平成26年度事業計画(案)及び収支予算(案)について  
第3号議案 各規則等の一部改正(案)について
- 同意事項 選考委員会委員の委嘱について  
利益相反委員会委員の委嘱について
- 報告事項 寄附金・賛助会員の入金等状況について  
平成25年度における職務の実施状況について
- その他 次期理事会開催について  
次期評議員会開催について
- 出席等 決議に必要な出席者の数5名、出席7名、欠席2名

### 3 選考委員会

#### (1) 調査研究等助成

- 1) 開催日 平成26年2月17日(月) 午後5時 法曹会館

議題1 平成26年度調査研究助成(5件)

①自閉症スペクトラム障害の稀なリスク変異の探索:複数罹患同胞家系のエクソーム解析  
新潟大学保健管理センター 澁谷 雅子

②福山型先天性筋ジストロフィー(Fukuyama congenital muscular dystrophy; FCMD)患者に生じるウイルス感染回復期の横紋筋融解の病態解明  
東京女子医科大学 小児科学教室 村上 てるみ

③脆弱X症候群モデルマウスの抑制性神経回路の成熟に関する研究  
Northwestern University 野村 寿博

④器官発生・病理におけるRET チロシンキナーゼ受容体の局在制御機構の解明  
神戸大学大学院 医学研究科 伊藤 圭祐

⑤自閉症モデルマウスに対するドコサヘキサエン酸(DHA)の効果について  
University of Missouri 松井 史裕

議題2 平成26年度研究集会等助成(1件)

①第1回 ACTION-J ケース・マネジメント関西地区講習会  
国立精神・神経医療研究センター

山田 光彦

## (2) てんかん志向若手医師人材育成助成

- 1) 開催日 平成25年8月6日(火) 書面  
議題 平成25年度てんかん志向若手精神科・神経科医師人材育成事業海外渡航助成について(5件)
  - ①30 the International Epilepsy Congress Montreal, Canada  
(2013年6月23日～2013年6月27日)  
福岡大学筑紫病院 小児神経学 石井 敦士
  - ②12th Asian Oceanian Congress on Child Neurology リヤド(サウジアラビア)  
(2013年9月14日～2013年9月18日)  
山形大学医学部 小児科学講座 中村 和幸
  - ③The American Epilepsy Society the 67th Annual Meeting Washington, DC  
(平成25年12月6日～10日)  
東京大学医学部附属病院 精神神経科 谷口 豪
  - ④The American Epilepsy Society the 67th Annual Meeting Washington, DC  
(平成25年12月6日～10日)  
国立精神・神経医療研究センター病院第一精神診療部 藤岡 真生
  - ⑤第30回 ICCN (International Congress on Clinical Neurophysiology of the IFCN)  
ベルリン(ドイツ)  
(平成26年3月20日～23日)  
国立精神・神経医療研究センター病院 神経内科 佐野 輝典

## (3) パーキンソニズム研究助成

- 1) 開催日 平成25年9月18日(水) 午後5時 法曹会館  
議題 1 平成25年度「パーキンソニズム・認知症の支援プロジェクト」研究助成(10件)
  - ①ESCRT-III 経路の活性化に着目した PD・AD 根本治療法開発の基盤(継続)  
名古屋大学大学院 創薬科学研究科 廣明 秀一
  - ②心臓交感神経脱落を指標としたレヴィ小体型認知症、パーキンソン症候群の診断精度向上(継続)  
(公財)東京都医学総合研究所 内原 俊記
  - ③錯視課題を用いたパーキンソン病における視空間認知障害の早期検出法の開発  
東北大学病院 馬場 徹
  - ④パーキンソン病の治療戦略:脳内オートファジー活性化によるシナプス機能の回復  
弘前大学大学院 医学研究科 若林 孝一
  - ⑤紀伊半島のパーキンソニズム認知症複合多発地域におけるバイオリソースの構築と環境要因の探索  
三重大学大学院 小久保 康昌
  - ⑥日本人パーキンソン病で高率に異常がみられる $\alpha$ シヌクレインおよび GBA (グルコセレブロシダーゼ)  
遺伝子操作による、シヌクレノパチー細胞モデル、マウスモデルの樹立と治療法の確立  
九州大学病院 神経内科 山口 浩雄
  - ⑦多系統委縮症モデルマウスを使ったパーキンソニズムの解析  
(独)国立長寿医療研究センター 矢澤 生
  - ⑧シヌクレノパチーモデルマウスを用いた新規治療戦略の確立  
(公財)東京都医学総合研究所 橋本 款
  - ⑨人工ヌクレアーゼ TALEN によるゲノム編集の、パーキンソン病(PD)患者由来 iPS 細胞への応用  
京都大学医学部附属病院 神経内科 山門 穂高
  - ⑩山形県のパーキンソン病患者の縦断的研究:13年前の全県レベルの横断的調査との比較検討  
山形大学医学部第三内科 加藤 丈夫

## 4 睡眠健康推進機構選考委員会

### (1) 機構長賞・学術研究助成

1) 開催日 平成25年8月30日(金) 書面

議題 1 平成25年度機構長賞(2件)

①共同研究「睡眠物質の発見と睡眠の液性調節に関する研究」

東京医科歯科大学名誉教授

井上 昌次郎

②共同研究「睡眠物質の発見と睡眠の液性調節に関する研究」

大阪バイオサイエンス研究所理事長

早石 修

議題 2 平成25年度学術研究助成(3件)

①無麻酔・無拘束マウスの神経ネットワークの計測と制御による概日リズムの評価

北海道大学大学院医学研究科

小野 大輔

②侵襲性の低いナルコレプシー診断法の確立へ向けて

公益財団法人 東京都医療総合研究所

田中 進

③睡眠薬が運転技能に与える影響: 運転シミュレータと近赤外分光法を用いた実証的検証

名古屋大学大学院医学研究科

岩本 邦弘

## II 公益目的事業報告

### ① 調査研究等助成

応募申請は調査研究5件(うち3件採択)、研究集会等5件(うち3件採択)

	調査研究課題又は講習会等の名称 所属機関 申請者	
1	多発性硬化症患者末梢血T細胞の機能制御における sirtuin-1 の役割 独立行政法人北海道医療センター	宮崎 雄生
2	視線認知刺激中の脳磁図を中間表現型とした自閉症スペクトラム障害の分子遺伝研究 国立病院機構さいがた病院	江川 純
3	VSRAD advance による変性性認知症と大うつ病の鑑別に関する多施設共同研究 国立精神・神経医療研究センター病院	野田 隆政
4	精神障がい者の医療と地域生活支援の連携を考える研修会 in 奈良 天理医療大学	末安 民生
5	第3回 NCNP 精神医学サマーセミナー 国立精神・神経医療研究センター病院	有馬 邦正
6	第50回精神保健指導課程研修 (コミュニティメンタルヘルスリーダーシップワークショップ) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所	竹島 正

### ② 実践的精神科薬物治療研究－うつ病薬物療法の最適化の研究

平成25年度の実施設数9大学45施設、症例登録数606件

③ てんかん志向精神科・神経科若手医師人材育成

応募申請は5件（うち5件採択）

	渡航先又は渡航目的（渡航期間） 所属機関 申請者	
1	30 the International Epilepsy Congress Montreal, Canada (2013年6月23日～2013年6月27日) 福岡大学筑紫病院 小児神経学	石井 敦士
2	12th Asian Oceanian Congress on Child Neurology リヤド(サウジアラビア) (2013年9月14日～2013年9月18日) 山形大学医学部小児科学講座	中村 和幸
3	The American Epilepsy Society the 67th Annual Meeting Washington, DC (2012年10月～2014年6月) 東京大学医学部附属病院 精神神経科	谷口 豪
4	The American Epilepsy Society the 67th Annual Meeting Washington, DC (2012年10月～2014年6月) 国立精神・神経医療研究センター病院	藤岡 真生
5	第30回 ICCN (International Congress on Clinical Neurophysiology of the IFCN) ベルリン(ドイツ) (平成26年3月20日～23日) 国立精神・神経医療研究センター病院 神経内科	佐野 輝典

④ 睡眠健康推進－睡眠に関する正しい知識の普及啓発活動

平成25年度 秋のすいみん市民公開講座			
地区名	会場名	日程	参加人数
岩手	アイーナ・いわて県民情報交流センター	平成25年9月1日	117名
仙台	エル・パーク仙台ギャラリーホール	平成25年9月7日	40名
新潟	新潟ユニゾンプラザ	平成25年8月31日	117名
東京	ベルサール九段 ホール	平成25年9月8日	388名
千葉	柏市民文化会館	平成25年8月31日	201名
岐阜	岐阜ふれあい福寿会館	平成25年9月8日	165名
京都	メルパルク京都	平成25年9月1日	183名
広島	広島県 JA ビル 10F 講堂	平成25年9月8日	70名
総合計			1,281名

平成25年度 春のすいみん市民公開講座

地区名	会場名	日程	参加人数
栃木	宇都宮東武ホテル グランデ	平成26年3月23日	165名
静岡	アクトシティ浜松コンgresセンター	平成26年3月16日	150名
東京	ベルサール九段 ホール	平成26年3月15日	223名
京都	メルパルク京都	平成26年3月9日	300名
島根	松江テルサ テルサホール B・C	平成26年3月16日	80名
長崎	メルカつきまち 市民生活プラザホール	平成26年3月16日	157名
総合計			1,075名

<第2回機構長賞受賞者>

井上 昌次郎 東京医科歯科大学名誉教授  
早石 修 大阪バイオサイエンス研究所理事長

<若手研究者への学術研究助成>

睡眠科学分野 小野 大輔 北海道大学大学院医学研究科  
睡眠医学分野 田中 進 公益財団法人 東京都医療総合研究所  
睡眠社会学分野 岩本 邦弘 名古屋大学大学院医学研究科

⑤ 精神障害者リハビリ全国フォーラム

リハビリ全国フォーラム 2013		
会場名	日程	参加人数
帝京平成大学 池袋キャンパス	平成 25 年 8 月 20 日・21 日	1,430 名

記念講演 アメリカにおけるリハビリ志向サービスへの転換  
マミー・マウラ ペンシルバニア南東部メンタルヘルス協会  
シンポジウム リハビリ志向サービスへの転換  
分科会 22 演題

⑥ こころの健康副読本作成事業

「こころの健康」をテーマにした中学校保健体育副読本の制作を行い、副読本を希望する中学校に無料で配布し、授業で副教材として活用いただくことを通して中学生へのこころの健康教育を推進することを目的として、以下内容にて活動を行った。

- ・中学校関係者、医療関係者、支援者らで「こころの健康副読本編集委員会」を組織
- ・中学生に対して悩みに関するヒアリング調査を実施
- ・メンタルヘルスケアの実践的な内容を、漫画を通して伝える副読本を編集・制作
- ・首都圏を中心とした公立中学校に無料で配布
- ・保健体育や総合的な学習の時間において本副読本を活用した授業を実施
- ・希望校に「こころの健康副読本編集委員会」による出前授業を実施
- ・中学生に対するメンタルヘルスケアに関する理解形成を促進
- ・印刷部数 生徒向け 32,000 部  
教師向け 2,000 部
- ・副読本配布総数 20,048 部 (79 校・20 団体)
- ・中学校向け DM 配信 1,000 校 (東京、神奈川の公立高校) ※希望校に配布

⑦ SLOF 尺度の標準化に関する研究事業

社会機能的転帰評価尺度である SLOF (Specific Levels of Functioning Scale; 特定機能レベル評価尺度)-日本語版の標準化および妥当性検討に関する研究

統合失調症患者の社会復帰を促進するために、当事者の社会的機能を評価する必要がある。その目的ですでにアメリカで試用されている SLOF の日本版を作成し、その有効性を検討しようとするものである。

統合失調症患者および精神疾患に罹患していない健常者を対象に、(1)神経認知機能、(2)社会機能的な能力、(3)社会機能的転帰等を評価する。

試験実施体制は高橋清久 (当財団理事長) を主任研究者、中込和幸 (国立精神・神経医療研究センター病院副院長) を事務局として、富山大学以下 9 施設が参加する。

平成 25 年度は研究プロトコルの作成、各参加施設の倫理委員会審査などの準備が完了し、平成 26 年度に本格調査を開始する。

⑧ パーキンソニズム・認知症医療支援研究

公募研究（継続）－ 応募申請 3 件中 2 件採択

	調査研究課題	所属機関及び職名	申請者
1	ESCRT-III 経路の活性化に着目した PD・AD 根本治療法開発の基盤	名古屋大学大学院創薬科学研究科 基盤創薬学専攻構造分子薬理学分野 教授	廣明 秀一
2	心臓交感神経脱落を指標としたレヴィ小体型認知症、パーキンソン症候群の診断精度向上	公益財団法人 東京都医学総合研究所 脳病理形態研究室長(副参事研究員)	内原 俊記

公募研究（新規）－ 応募申請 19 件中 8 件採択

	調査研究課題	所属機関及び職名	申請者
1	錯視課題を用いたパーキンソン病における視空間認知障害の早期検出法の開発	東北大学病院 高次脳機能障害リハビリテーション科 助教	馬場 徹
2	パーキンソン病の治療戦略：脳内オートファジー活性化によるシナプス機能の回復	弘前大学大学院医学研究科 脳神経病理学講座 教授（施設長）	若林 孝一
3	紀伊半島のパーキンソニズム認知症複合多発地域におけるバイオリソースの構築と環境要因の探索	三重大学大学院 地域イノベーション学研究所 招聘教授	小久保 康昌
4	日本人パーキンソン病で高率に異常がみられる αシヌクレインおよび GBA（グルコセレブロシダーゼ）遺伝子操作による、シヌクレノパチー細胞モデル、マウスモデルの樹立と治療法の確立	九州大学病院 神経内科 助教	山口 浩雄
5	多系統委縮症モデルマウスを使ったパーキンソニズムの解析	国立長寿医療研究センター バイオリソース研究室長	矢澤 生
6	シヌクレイノパチーモデルマウスを用いた新規治療戦略の確立	公益財団法人東京都医学総合研究所 副参事研究員、プロジェクトリーダー	橋本 款
7	人工ヌクレアーゼ TALEN によるゲノム編集の、パーキンソン病（PD）患者由来 iPS 細胞への応用	京都大学医学部附属病院 神経内科 助教	山門 穂高
8	山形県のパーキンソン病患者の縦断的研究：13 年前の全県レベルの横断的調査との比較検討	山形大学医学部第三内科 （神経・内分泌代謝・血液内科） 教授	加藤 丈夫

指定（委託）研究 4 件

	研究課題	所属機関及び職名	申請者
1	パーキンソン病におけるテレメディスン・システムの開発	順天堂大学 医学部 神経学 教授	服部 信孝
2	パーキンソン病関連疾患に伴う不眠症に対する高照度光療法の効果	国立精神・神経医療研究センター病院 臨床検査部 睡眠障害検査室 医長	亀井 雄一
3	パーキンソン病および類縁疾患の剖検例からみる臨床的鑑別診断のための除外症候と除外検査値	信州大学 医学部 神経難病学講座分子病理学部門 教授	小柳 清光
4	パーキンソン病における認知症とレム睡眠行動異常症に関する研究	慶應義塾大学 医学部 神経内科 助教	関 守信

他にも日野市（平成 25 年 9 月 12 日、平成 26 年 2 月 20 日）、立川市（平成 26 年 1 月 15 日）にて医療相談会を開催。

⑨ 国立精神・神経医療研究センター医療セミナー助成

	講習会等の名称（担当者）	開催期間	参加人数
1	国立精神・神経医療研究センター神経内科短期臨床研修セミナー（村田 美穂）	平成 25 年 7 月 16 日（火）～平成 25 年 7 月 17 日（水）	40 名参加
2	国立精神・神経医療研究センター小児神経セミナー（佐々木 征行）	平成 25 年 7 月 18 日（木）～平成 24 年 7 月 20 日（土）	42 名参加
3	国立精神・神経医療研究センター筋病理セミナー（西野 一三）	第 48 回 平成 25 年 7 月 22 日（月）～平成 25 年 7 月 26 日（金）	12 名参加
		第 49 回 平成 25 年 8 月 26 日（月）～平成 25 年 8 月 30 日（金）	12 名参加

⑩ 新規抗うつ薬の長期投与試験事業

大うつ病性障害患者を対象とした新規抗うつ薬の長期投与試験～大うつ病性障害患者における新規抗うつ薬（SSRI 若しくは SNRI）の非盲検無作為化可変用量長期投与試験～

本研究は、新規抗うつ薬による治療継続性（受容性）、社会機能的転帰について長期間（2 年間）追跡調査することで、わが国での実地臨床場面における抗うつ薬治療の実態が明らかにするとともに、抗うつ薬に関する治療選択の基準が得ることを目的とする。

主診断が大うつ病性障害である患者（既治療・未治療を問わず）を対象に、1 薬剤につき 100 症例を目標とする。投与開始時から原則 104 週間投与を行い、社会機能の改善度および治療継続度を調べる。

試験実施体制は高橋清久（当財団理事長）を主任研究者、中込和幸（国立精神・神経医療研究センター病院副院長）を事務局として、慶應義塾大学病院（代表者：三村 将）、昭和大学病院附属東病院（代表者：岩波 明）京都大学病院（代表者：古川寿亮）が参加する。

平成 25 年度にはプロトコル作成、倫理委員会審査等の準備が完了し、平成 26 年度から本格的に研究を開始する。

⑪ 広報活動

ニュースレター（年 2 回）発行、財団ホームページの充実、パンフレットの作成



⑫委託研修

司法精神医療等人材養成研修

1. 指定(入院・通院)医療機関従事者研修会開催実績

研 修 場 所		受 講 者 数			備 考
研修期間	会場名・所在地	指定入院 医療機関	指定通院 医療機関	合 計	
平成25年9月 13日(金) 14日(土)	ベルサール九段 千代田区九段北 1-8-10	名 82	名 106	名 188	欠席者: 4名 入院: 0名 通院: 4名
平成25年10月 8日(火) 9日(水)	天満研修センター 大阪市北区錦町 2-21	53	88	141	欠席者: 8名 入院: 0名 通院: 8名
平成25年11月 12日(火) 13日(水)	ベルサール九段 千代田区九段北 1-8-10	85	109	194	欠席者: 0名 入院: 0名 通院: 0名
平成25年11月 29日(金) 30日(土)	天満研修センター 大阪市北区錦町 2-21	実施せず	175	175	欠席者: 3名 通院: 3名
合 計		220 名	478 名	698 名	

2. 指定入院医療機関従事者病棟研修会開催実績

研 修 場 所		受 講 者 数
研修期間	会場名・所在地	
平成25年8月 1日(木) 2日(金) 7日(水) 9日(金) 20日(火) 21日(水) 22日(木) 23日(金) 10月15日(火) 16日(水) 17日(木)	滋賀県立精神医療センター 滋賀県草津市笠山八丁目 4 番 25 号	46名

平成 25 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。